

清水 康之 (しみず やすゆき)

〔厚生労働大臣指定法人いのち支える自殺対策推進センター代表理事〕  
〔NPO法人自殺対策支援センターライフリンク代表〕  
〔超党派「自殺対策議連」アドバイザー〕



(略歴)

- 1997年 NHKに入局
- 2001年 「クローズアップ現代」で、自殺で親を亡くした子どもたちの番組を制作したことがきっかけで自殺対策に関心を持つようになるが「推進役」のいない日本の自殺対策に限界を感じて、2004年春にNHKを退局。  
同年秋にライフリンクを設立し、同代表に就任。
- 2006年 自殺対策基本法の制定に関わる。
- 2009年 内閣府参与(自殺対策担当)として「自殺対策強化月間」の導入などを実現。
- 2016年 自殺対策基本法の改正に関わる。
- 2019年 いのち支える自殺対策推進センターを設立し、同代表理事に就任。現在に至る。

## 「生き心地の良い社会」をめざして

『いのちを守るために、みんなでつながりあっていこう』  
『自殺に追い込まれていくいのちを、みんなでつながりながら守っていこう』  
私たちは「ライフリンク」に、そうした決意を込めています。  
めざしているのは「生き心地の良い社会」を築き上げること。  
誰もが自殺の脅威にさらされることなく、  
自分自身であることに満足しながら生きることのできる社会の実現です。

◆  
いま日本で自殺する人の数は年間3万人。未遂者も含めれば一日1000人。  
この時代に、この社会で、私たちと同じ空気を吸っているそれだけの数の人たちが、  
自ら「いのち」を絶っています。

特別な人たちが、特別な理由で、自殺しているわけではありません。  
私たちと同じ日常を生きている人たちが、  
過労や多重債務、いじめや介護疲れ、差別や社会に対する不信感など  
様々な社会問題に追い詰められた末に、  
生きる道を閉ざされて、「自殺」で亡くなっているのです。

◆  
現代日本社会の自殺の多くは、  
社会的な対策があれば「避けることのできる死」です。  
その意味で、  
自殺対策とは「生きる支援」「いのちへの支援」でもあると言えます。  
誰も自殺に追い詰められることのない社会。  
自殺で大切な人を亡くした人が安心して悲しむことのできる社会。  
それはきっと、自殺とは無関係と思っているひとりひとりにとっても  
生きていて心地の良い社会であるはずで。

◆  
「生き心地の良い社会」の実現をめざして。  
ライフリンクは「つながり」をキーワードにした自殺対策、  
「いのちへの支援」に取り組んでいます。